

樹林園における病害虫防除記録

松本広樹

1 はじめに

樹林園では、薬剤散布を業者委託により定期的に休園日である金曜日に行っている（表1）。毎年、このような外部委託以外にも発生のおど直営で随時対応しているが、12年度は、一部で病害虫の多発生が見られたため、防除を行ったので報告する。

2 薬剤散布記録（発生順）

臨時の薬剤散布は延べ11回行った（表2）。薬剤の選択に当たって留意したことは、効能のほか、即効性及び残効性である。

(1) カンヒザクラ（幼果菌核病）

他種にさきがけて展葉する本種のみで激発した。罹病した枝先を除去した後、薬剤散布した結果、発生が見られなくなった他、多種へのまん延も見られなかった。

(2) モクレン属（コブシハバチの幼虫）

本園では、毎年モクレン属の木に大発生し、数日で葉を食べ尽くす要注意害虫である。農薬に弱く、薬剤散布により完全に防除できた。

(3) アジサイ属（ハダニ類）

葉が黄変し、一部落葉するほど多発したため、薬剤散布を連続して行った。3回目の薬剤散布の3日後に25mmの降雨があったこともあり、薬剤散布の必要性がない程度に減った。

(4) チャノキ・ヒサカキ（輪紋葉枯病）

隣接して植栽している2種が同時に罹病した。薬剤散布により、まん延が防止できた。

(5) クサツゲ（ツゲノメイガ）

発生が見られるたびに薬剤散布することで防除できた。

(6) カエデ属等（カミキリムシ類の幼虫）

カエデ属、ニレ属並びにシリング属の寒冷地原産の種に発生が多く見られた。食害痕（穴）に薬剤を注入し、その後田土で穴を塞いだ。注入後、発生が見られなくなった。

(7) アジサイ属（輪斑病）

枝先に罹病した。薬剤散布によりまん延が防止できた。

(8) サクラ類（ウメシロカイガラムシ）

通風の悪いサクラの枝に多発した。この薬剤散布では防除仕切れなかったため、冬季の石灰硫黄合剤による防除まで様子を見ることとした。

表1 業者委託による薬剤散布（関係分のみ抜粋）

樹種	実施日	薬剤	倍率	散布量
サクラ類 モクレン属 カエデ・ニレ・シリング属	4月28日	アグロスリン水和剤	2,000倍	120L/100本
	6月9日	ディプテレックス乳剤	1,000倍	
	9月8日	ベンレート水和剤	1,000倍	
アジサイ属	5月12日	オルトラン水和剤	1,000倍	40L/100㎡
	6月23日	スプラサイド乳剤	1,000倍	
	8月18日	ベンレート水和剤	1,000倍	
ヒサカキ チャノキ クサツゲ	5月19日	トレボン乳剤	1,000倍	40L/100㎡
	7月14日	スプラサイド乳剤	1,000倍	
	9月8日	ベンレート水和剤	1,000倍	

表2 薬剤散布記録

樹種	病害虫名	実施日	薬剤	倍率	散布量
カンヒザクラ	幼果菌核病	5月19日	アクテリック乳剤	1,000倍	100L/10本
モクレン属	コブシハバチ幼虫	6月2日	オルトラン水和剤	1,000倍	100L/20本
アジサイ属	ハダニ類	6月6日	ケルセン乳剤 オルトラン水和剤	1,000倍 1,000倍	100L/40本
		6月13日	ピラニカEW アディオオン乳剤	1,000倍 2,000倍	50L/40本
		6月14日	オサダン水和剤 アグロスリン水和剤	1,000倍 2,000倍	50L/40本
ヒサカキ・チャノキ	輪紋葉枯病	6月28日	キノンドー80	1,000倍	15L/20㎡
クサツゲ	ツゲノメイガ	7月4日	トレボン乳剤 ディプテレックス乳剤	1,000倍 1,000倍	10L/10㎡
		8月8日	ディプテレックス乳剤	1,000倍	10L/10㎡
カエデ・ニレ・シリング属	カミキリムシ幼虫	7月13日	スミチオン乳剤	原液	10mL注入/1本
アジサイ属	輪斑病	8月23日	Zボルドー	500倍	30L/40本
サクラ類	ウメシロカイガラムシ	10月13日	スプラサイド乳剤	1,000倍	50L/20本